

練馬区高齢者基礎調査 報告書

【概要版】



練馬区公式アニメキャラクターねり丸 ©練馬区

平成 26 年（2014 年）3 月



目次

調査概要	1
1. 回答者の基本属性	3
2. 日常生活の状況	3
3. 住まい	5
4. 健康・介護予防	5
5. 社会参加	8
6. 地域のつながり	10
7. 高齢者相談センター	12
8. 介護	14
9. 特別養護老人ホーム入所申込みの状況	15
10. 家族介護の状況	17
11. 介護サービス事業所調査	18

調査概要

(1) 調査の目的

第6期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成27～29年度）策定にあたり、高齢者やこれから高齢期を迎える方等の生活実態や意識・意向、介護サービス事業者の運営状況等の基礎データを把握するために調査を実施した。

(2) 調査方法

調査票は送付、回収ともに郵送により実施した。ただし、特別養護老人ホーム入所待機者調査において、ご自宅にお住まいの練馬区特別養護老人ホーム入所基準の指数が高い方（11ポイント以上）については、高齢者相談センター職員の訪問調査により実施した。

(3) 調査対象

※各調査の調査対象者は、④特別養護老人ホーム入所待機者調査、⑤介護サービス事業所調査を除き住民基本台帳から無作為抽出した。

※無作為抽出は、調査間での対象者の重複を避け、所定の人数を抽出した。

調査種別	調査対象	図・表中での記載名
①高齢者一般調査	介護保険の認定を受けていない 65 歳以上の区民から無作為に 2,300 人を抽出した。	高齢者一般
②要支援・要介護認定者調査	介護保険の認定を受けている 65 歳以上の区民から無作為に 2,700 人を抽出した。	要介護認定者
③これから高齢期を迎える方の調査	介護保険の認定を受けていない 55～64 歳の区民から無作為に 800 人を抽出した。	これから高齢期
④特別養護老人ホーム入所待機者調査	平成 25 年 6 月末時点の特別養護老人ホーム入所待機者の方全員から、調査時点において亡くなられた方等を除いた 2,617 人を対象とした。	【特養入所待機者】 全体 ※ ├ 11ポイント以上 └ 10ポイント以上
⑤介護サービス事業所調査	平成 25 年 11 月 1 日現在、介護サービスを提供している区内の 929 事業所を対象とした。	介護サービス事業所

※④特別養護老人ホーム入所待機者調査では、全体での集計の他に、練馬区特別養護老人ホーム入所基準の指数が 11 ポイント以上の方と 10 ポイント以下の方を分けた集計を行った

(4) 回収状況

調査種別	発送数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
①高齢者一般調査	2,300	1,586	69.0%	1,583	68.8%
②要支援・要介護認定者調査	2,700	1,606	59.5%	1,534	56.8%
③これから高齢期を迎える方の調査	800	451	56.4%	450	56.3%
④特別養護老人ホーム入所待機者調査	2,617	1,425	54.5%	1,352	51.7%
11ポイント以上	710	345	48.6%	320	45.1%
10ポイント以下	1,907	1,080	56.6%	1,032	54.1%
⑤介護サービス事業所調査	929	656	70.6%	656	70.6%

※概要版を利用するにあたって

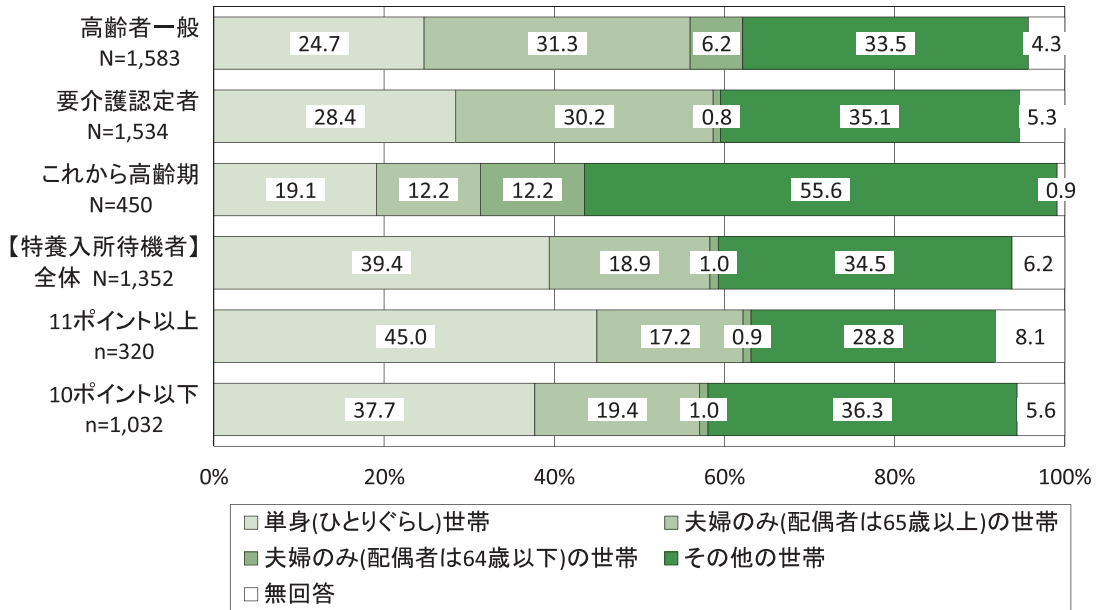
- 図・表中の n とは、基数となる実数のことである。
- 回答は n を 100% として百分率で算出している。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の「-」は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100% を超える。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。

1. 回答者の基本属性

(1) 世帯構成

- 高齢者一般、要介護認定者、特養入所待機者では「単身（ひとりぐらし）世帯」と「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）の世帯」を合わせた世帯が、それぞれ6割弱を占めている。
- 「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合を比べると、特養入所待機者が最も多く39.4%となっている。特に、11ポイント以上は約半数の45.0%が「単身（ひとりぐらし）世帯」と回答している。
- これから高齢期では、「その他の世帯」が過半数を占めている。

図表1 世帯構成（単数回答）

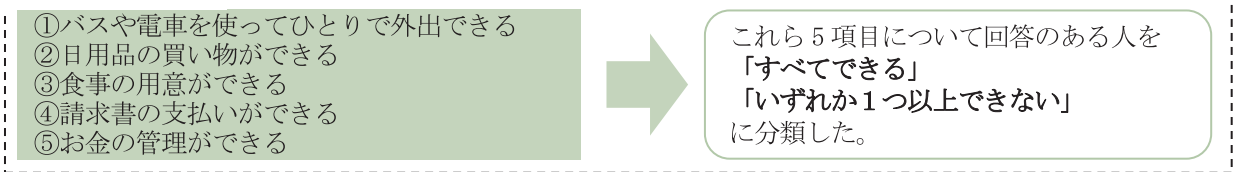


2. 日常生活の状況

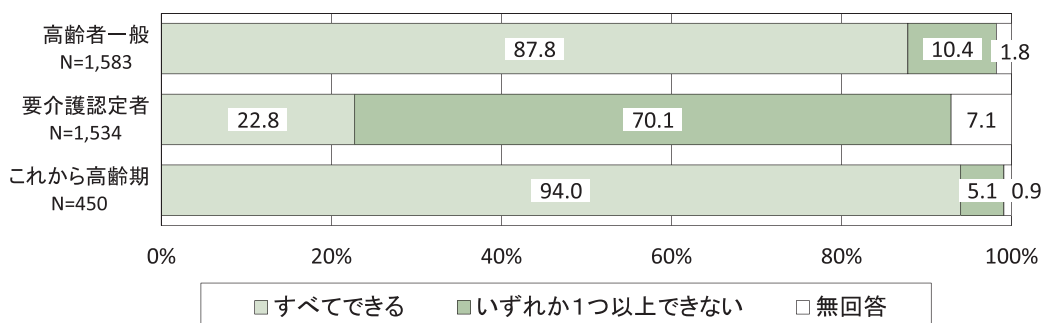
(1) 自立状況

- ①～⑤の項目を「すべてできる」と回答した人は、高齢者一般で87.8%、要介護認定者で22.8%、これから高齢期で94.0%となっている。

《自立状況の分析》



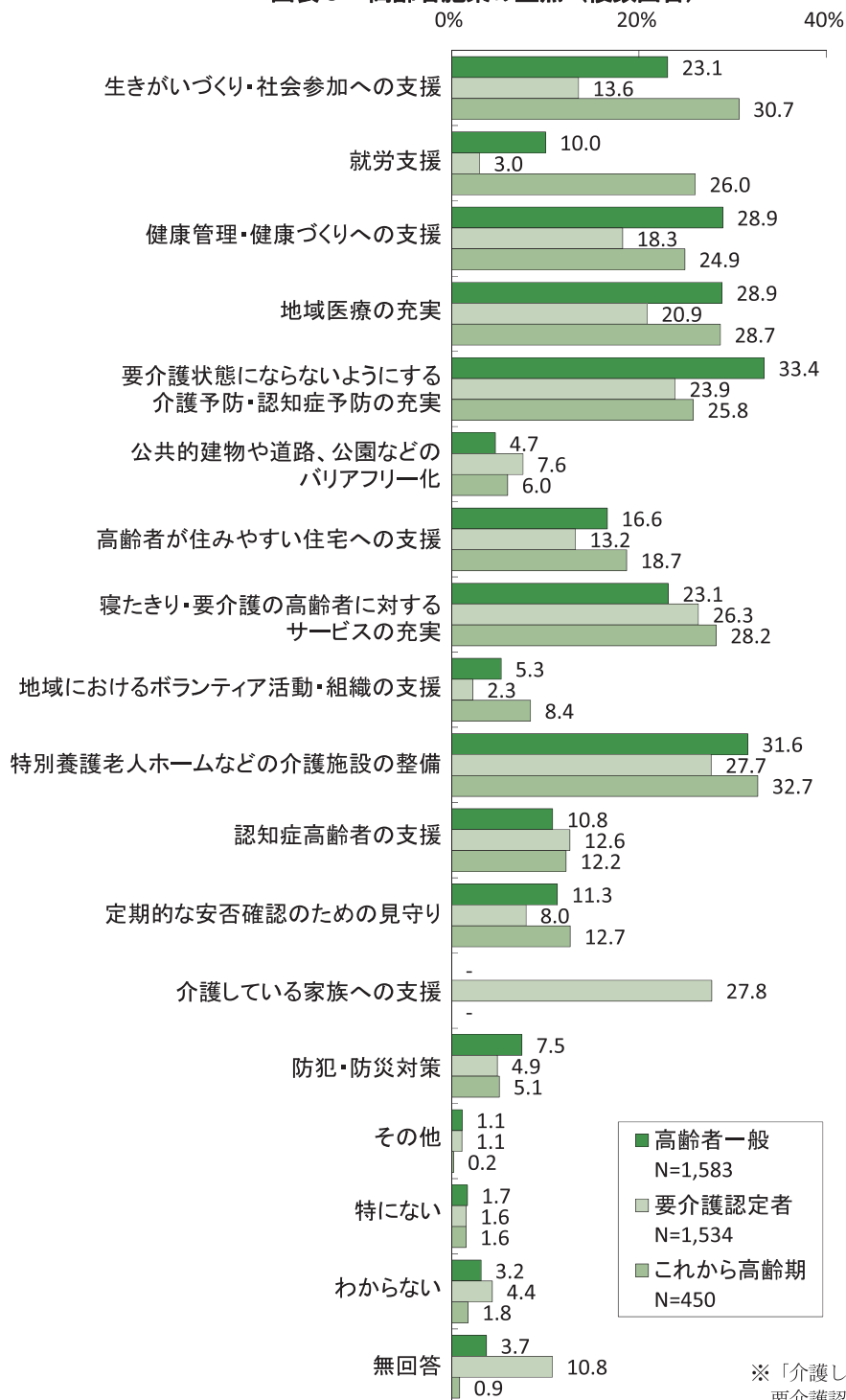
図表2 日常生活での自立状況（単数回答）



(2) 今後力を入れてほしい高齢者施策

- 高齢者一般では、「要介護状態にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」が最も多く 33.4%、「特別養護老人ホームなどの介護施設の整備」(31.6%) もほぼ同じ割合を示している。次いで「健康管理・健康づくりへの支援」「地域医療の充実」がともに 28.9%となっている。
- 要介護認定者では、「介護している家族への支援」が最も多く 27.8%、「特別養護老人ホームなどの介護施設の整備」(27.7%)、「寝たきり・要介護の高齢者に対するサービスの充実」(26.3%) もほぼ同じ割合を示している。
- これから高齢期では、「特別養護老人ホームなどの介護施設の整備」が最も多く 32.7%、「生きがいづくり・社会参加への支援」(30.7%) もほぼ同じ割合を示している。次いで「地域医療の充実」が 28.7%、「寝たきり・要介護の高齢者に対するサービスの充実」が 28.2%となっている。

図表3 高齢者施策の重点(複数回答)

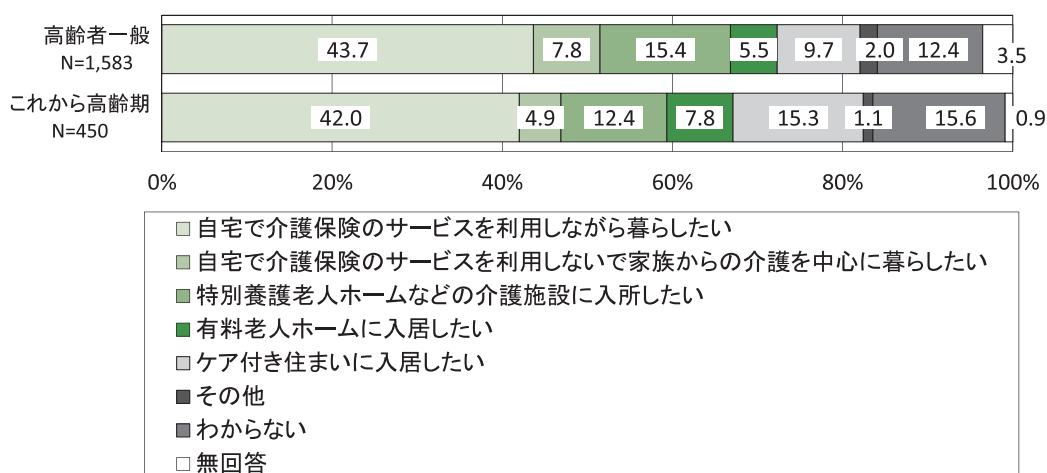


3. 住まい

(1) 介護が必要になった場合の生活場所

- 高齢者一般、これから高齢期ともに「自宅で介護保険のサービスを利用しながら暮らしたい」が最も多く4割強で、「自宅で介護保険のサービスを利用しないで家族からの介護を中心に暮らしたい」と回答した人も含めると、在宅での生活を希望している人が5割前後を占めている。
- 「特別養護老人ホームなどの介護施設に入所したい」と回答した人は、高齢者一般で15.4%、これから高齢期で12.4%となっている。

図表4 介護が必要になった場合の生活場所（単数回答）



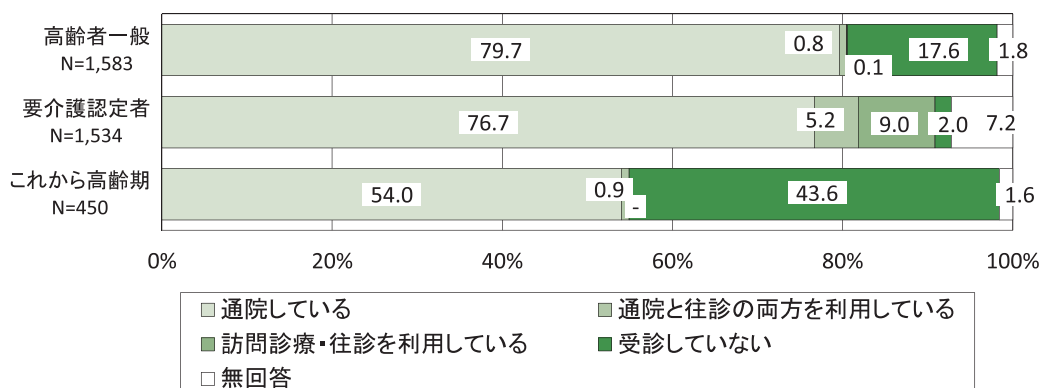
4. 健康・介護予防

(1) 医療の受診状況

①医療の受診形態

- 「通院している」「通院と往診の両方を利用している」「訪問診療・往診を利用している」と回答した“何らかの方法で医療を受診している”人は、高齢者一般で約8割、要介護認定者で約9割を占めている。
- 高齢者一般、要介護認定者ともに「通院している」が最も多く、高齢者一般が79.7%、要介護認定者が76.7%となっている。
- これから高齢期では、「通院している」が54.0%で最も多いが、「受診していない」も43.6%となっている。

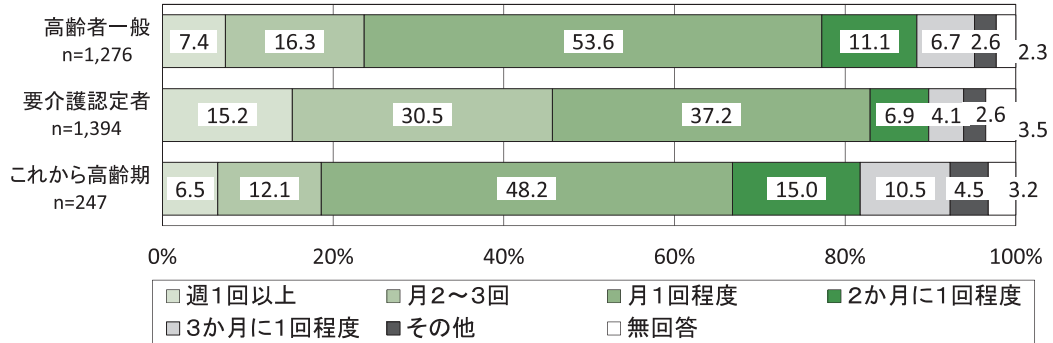
図表5 医療の受診形態（単数回答）



②医療機関の受診頻度

○ “何らかの方法で医療を受診している” 人の医療機関の受診頻度は、いずれの調査においても「月1回程度」が最も多く、「月2～3回」と回答した人も含めると、「月1～3回」が約6～7割を占めている。

図表6 医療機関の受診頻度（単数回答）



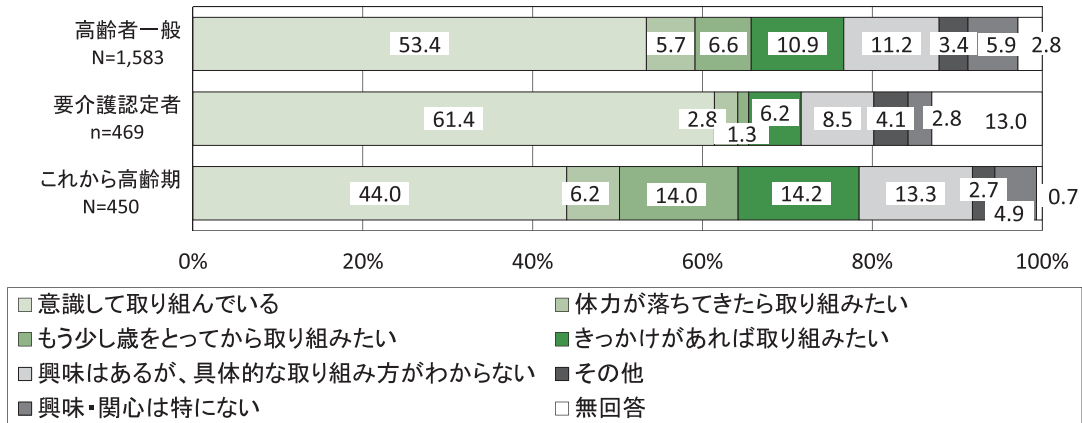
(2) 介護予防の取り組み

①介護予防の取り組み状況

○いずれの調査においても「意識して取り組んでいる」が最も多く、4～6割を占めている。

○いずれの調査においても「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」が1割前後を占めており、また、「興味・関心は特にない」と回答した人が少なからずみられる。

図表7 介護予防の取り組み状況（単数回答）



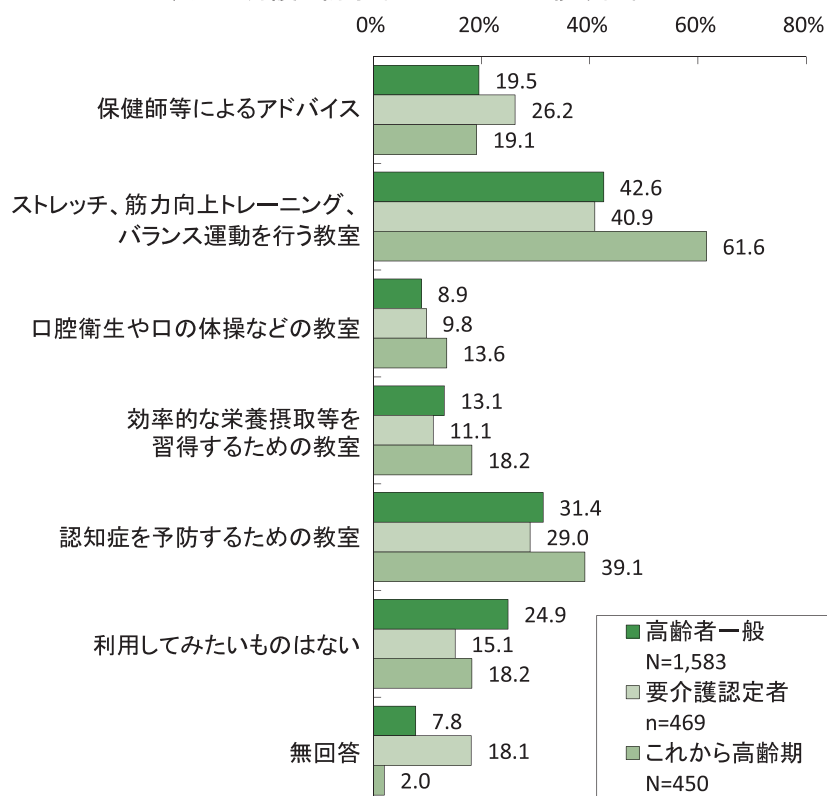
※要介護認定者は、要支援1・2の人を対象に聞いた

②介護予防事業の利用意向

○いずれの調査においても「ストレッチ、筋力向上トレーニング、バランス運動を行う教室」が最も多く、次いで「認知症を予防するための教室」が続いている。

○いずれの調査においても、「利用してみたいものはない」がそれぞれ2割前後を占めている。

図表8 介護予防事業の利用意向（複数回答）



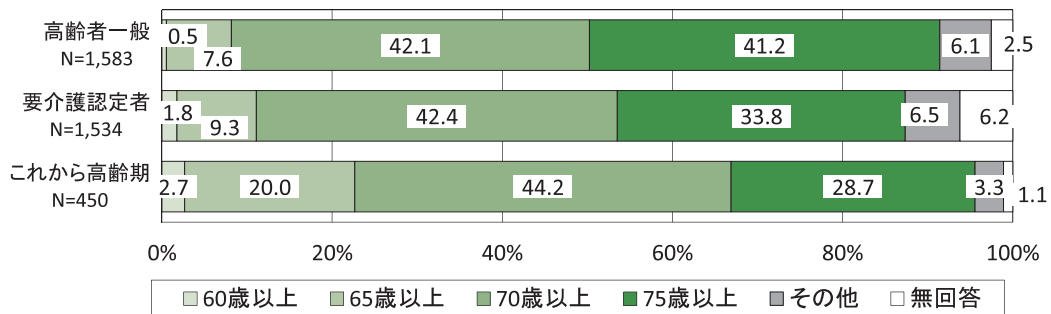
※要介護認定者は、要支援1・2の人を対象に聞いた

5. 社会参加

(1) 高齢者だと思える年齢

○「何歳以上が高齢者だと思いますか」という問いに対しては、いずれの調査においても「70歳以上」が最も多く、「75歳以上」と回答した人も含めると、「70～75歳以上」が7～8割を占めている。

図表9 「高齢者」の年齢（単数回答）



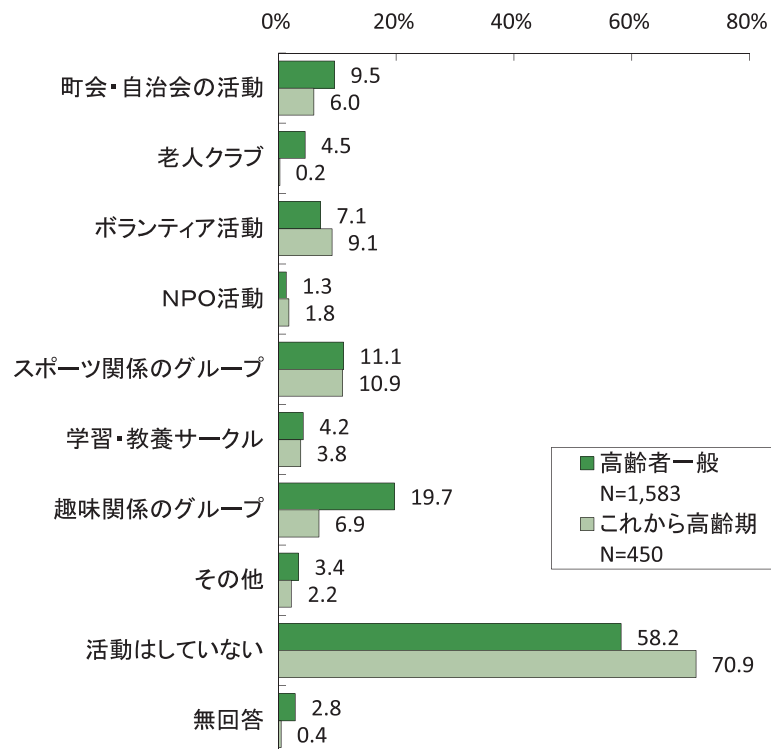
(2) 地域活動への参加状況

①地域活動への参加状況

○高齢者一般、これから高齢期ともに「活動はしていない」が約6～7割を占めている。

○高齢者一般では「趣味関係のグループ」、これから高齢期では「スポーツ関係のグループ」が最も多い。

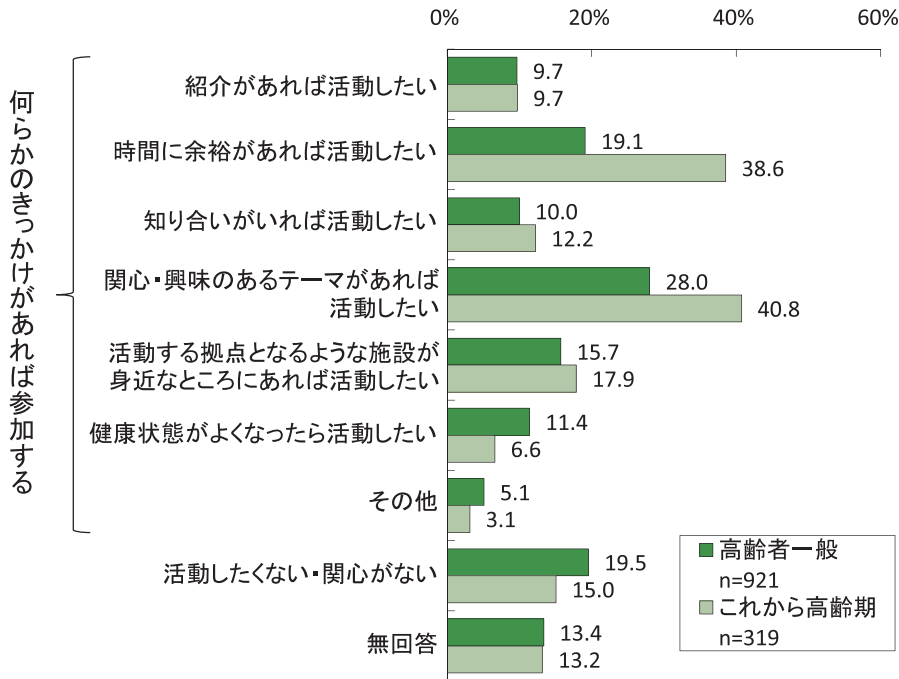
図表10 地域活動への参加状況（複数回答）



②地域活動に参加するきっかけ

○地域活動への参加状況で「活動はしていない」と回答した人の地域活動に参加するきっかけは、高齢者一般、これから高齢期ともに「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」が最も多い。
 ○高齢者一般、これから高齢期ともに、「活動したくない・関心がない」が2割弱を占めている。

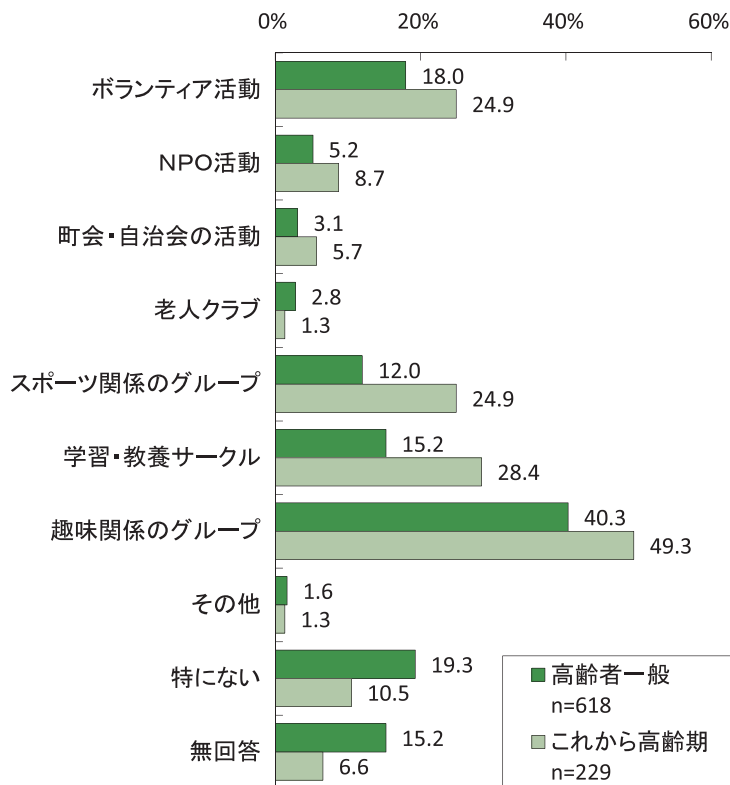
図表 11 地域活動に参加するきっかけ（複数回答）



③活動してみたい地域活動の分野

○地域活動に参加するきっかけで“何らかのきっかけがあれば参加する”と回答した人の活動してみたい地域活動の分野は、高齢者一般、これから高齢期ともに「趣味関係のグループ」が最も多い。

図表 12 活動してみたい地域活動の分野（複数回答）



6. 地域のつながり

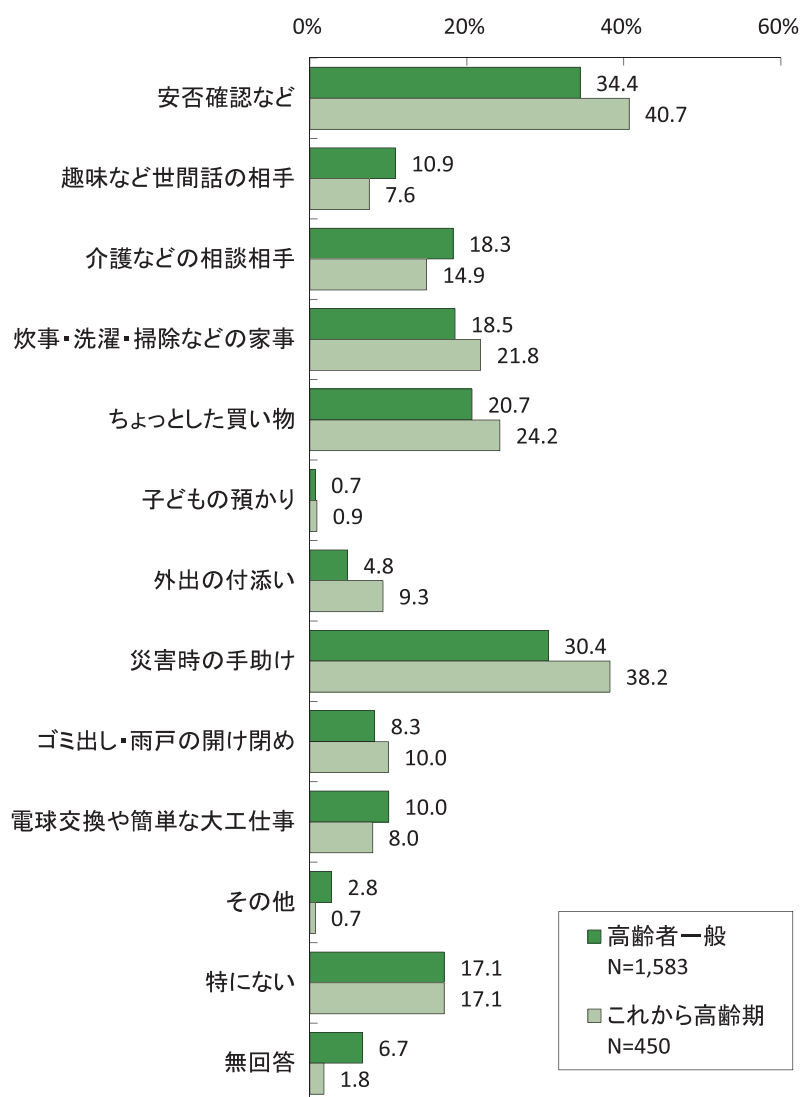
(1) 手助け

①地域の人たちにしてほしい手助け

○高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにしてほしい手助けは、高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認など」が3割強～4割で最も多く、次いで「災害時の手助け」「ちょっとした買い物」が続いている。

○一方で、高齢者一般、これから高齢期ともに2割弱が「特にない（手助けは不要）」と回答している。

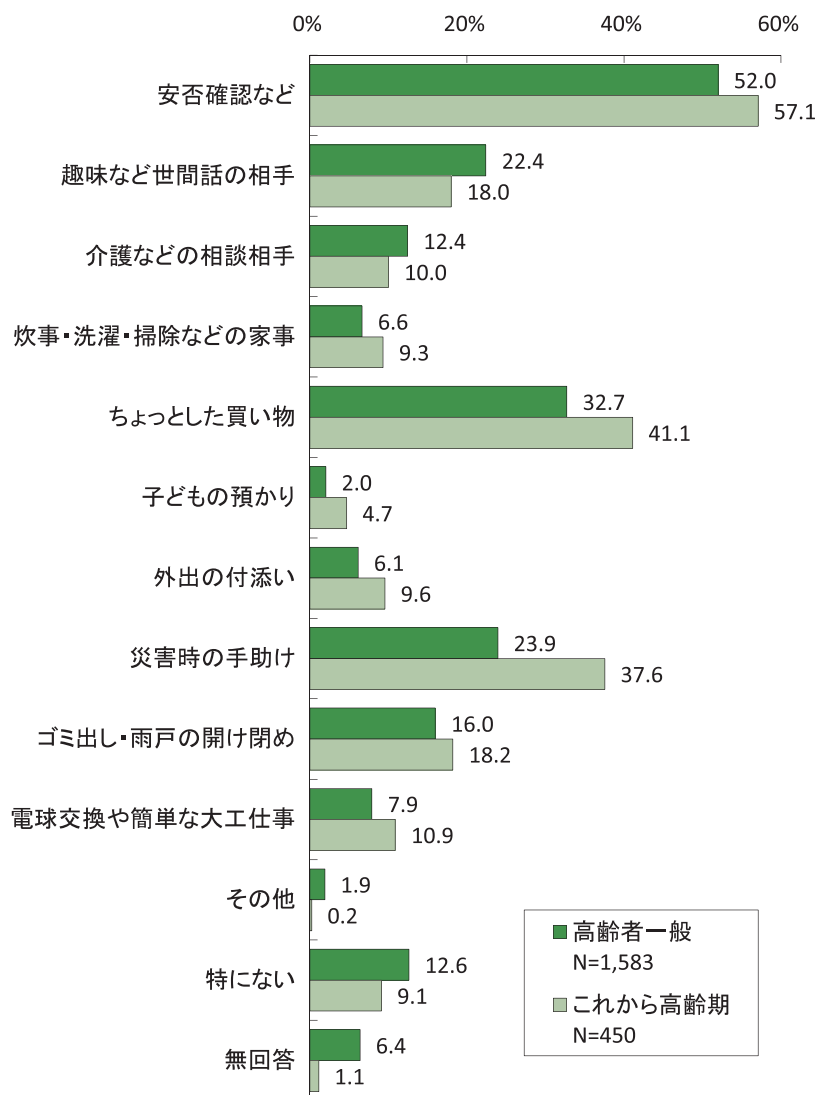
図表 13 地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）



②地域の支え合いとして自身ができること

○高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認など」が5割を超えて最も多く、次いで「ちょっとした買い物」「災害時の手助け」が続いている。

図表 14 地域の支え合いとして自身ができること（複数回答）



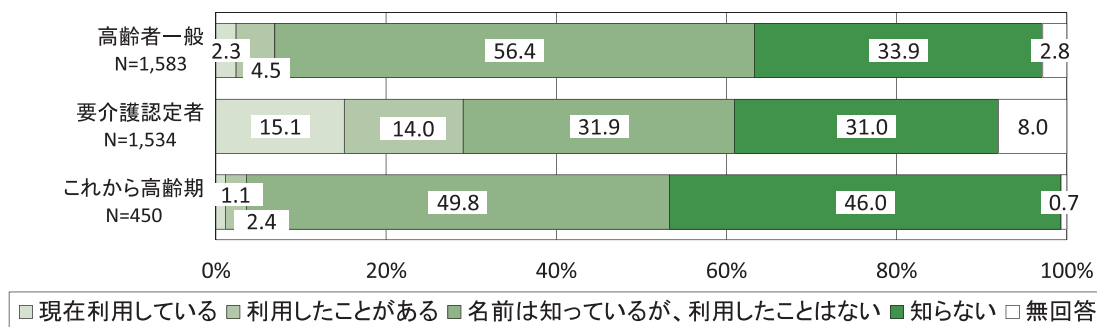
7. 高齢者相談センター

(1) 高齢者相談センターの認知度

○高齢者相談センターを「知らない」と回答した人は、高齢者一般が 33.9%、要介護認定者が 31.0%、これから高齢期が 46.0%となっている。

○いずれの調査においても、「現在利用している」「利用したことがある」「名前は知っているが、利用したことはない」を合わせた“知っている”が、「知らない」を上回っている。

図表 15 高齢者相談センターの認知度（単数回答）

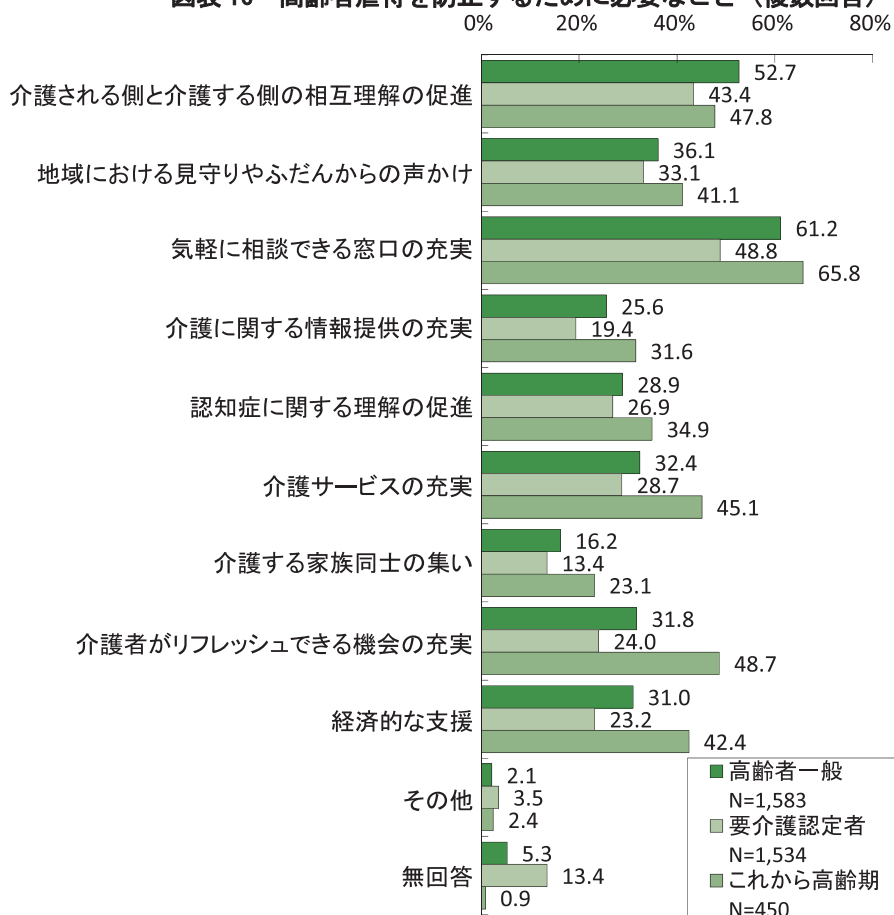


(2) 高齢者虐待を防止するために必要なこと

○高齢者一般、要介護認定者では「気軽に相談できる窓口の充実」が最も多く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」、「地域における見守りやふだんからの声かけ」と続いている。

○これから高齢期では、「気軽に相談できる窓口の充実」が最も多く、次いで「介護者がリフレッシュできる機会の充実」、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」と続いている。

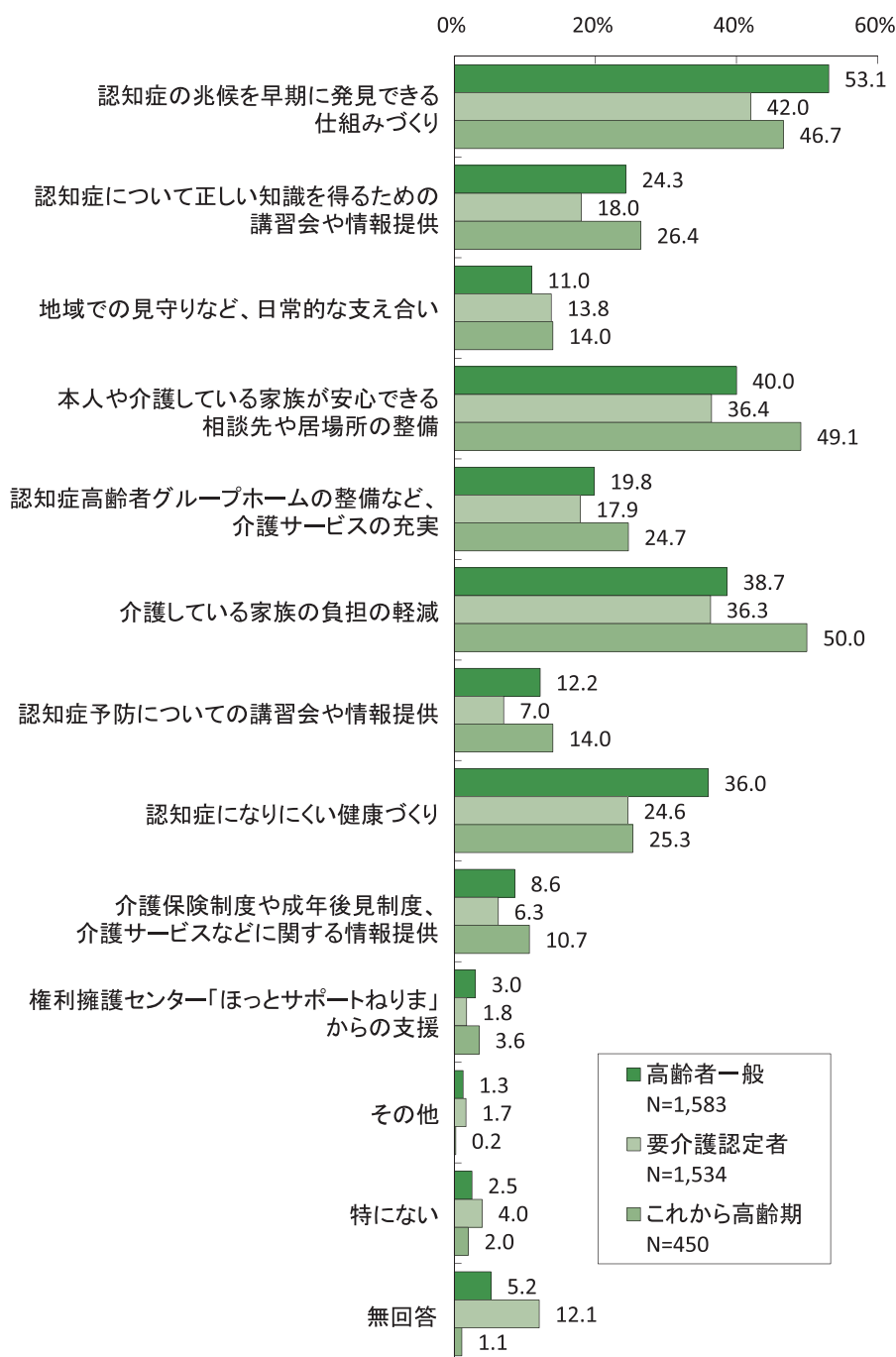
図表 16 高齢者虐待を防止するために必要なこと（複数回答）



(3) 認知症施策で必要なこと

- 高齢者一般では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が最も多く 53.1%、次いで「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」が 40.0%、「介護している家族の負担の軽減」が 38.7%、「認知症になりにくい健康づくり」が 36.0%と続いている。
- 要介護認定者では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が最も多く 42.0%、次いで「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」が 36.4%、「介護している家族の負担の軽減」が 36.3%と続いている。
- これから高齢期では、「介護している家族の負担の軽減」が最も多く 50.0%、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(49.1%)、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」(46.7%) もほぼ同じ割合を示している。

図表 17 認知症施策で必要なこと（複数回答）



8. 介護

(1) 介護保険サービスの利用状況

- 要介護認定者では、「福祉用具貸与・購入」が最も多く 34.0%、次いで「通所介護」が 30.2%、「訪問介護」が 28.5%と続いている。
- 特養入所待機者では、「通所介護」が最も多く 25.2%、次いで「訪問介護」が 19.8%、「福祉用具貸与・購入」が 18.9%と続いている。
- 要介護認定者では2割弱、特養入所待機者では1割弱が「いずれも利用していない」と回答している。

図表 18 介護保険サービスの利用状況（複数回答）

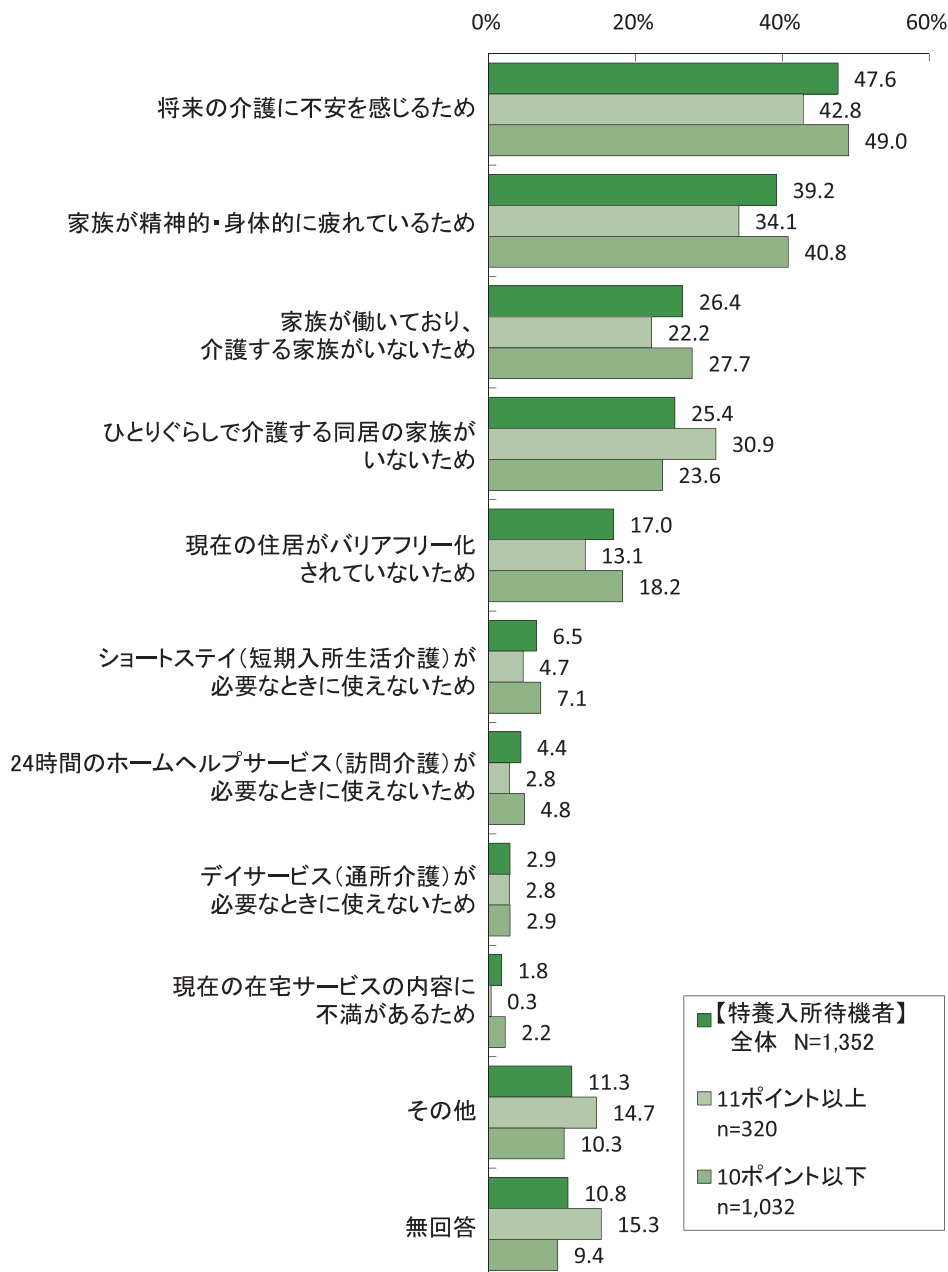
	要介護認定者 (N=1,534)	【特養入所待機者】 全体 (N=1,352)		
		11ポイント以上 (n=320)	10ポイント以下 (n=1,032)	
訪問介護 (ホームヘルプサービス)	28.5	19.8	20.0	19.8
訪問入浴介護	7.6	5.0	5.3	4.9
訪問リハビリテーション	7.0	3.8	3.8	3.9
訪問看護	7.3	6.2	6.9	6.0
居宅療養管理指導	2.5	2.7	2.8	2.6
通所介護 (デイサービス)	30.2	25.2	20.0	26.8
通所リハビリテーション (デイケア)	13.2	4.8	3.4	5.2
短期入所生活介護 (ショートステイ)	7.7	15.6	12.2	16.7
短期入所療養介護 (医療型ショートステイ)	0.3	0.5	0.6	0.5
特定施設入居者生活介護	2.6	10.2	7.8	10.9
福祉用具貸与・購入	34.0	18.9	16.3	19.7
住宅改修	9.9	5.5	3.8	6.1
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	1.1	10.2	14.1	9.0
介護老人保健施設	1.5	16.6	15.0	17.1
介護療養型医療施設	1.3	5.5	9.1	4.5
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (24時間対応の訪問サービス)	1.3	1.3	0.9	1.4
夜間対応型訪問介護	0.4	0.5	0.6	0.5
小規模多機能型居宅介護 (通い・訪問・泊まりなどを組み合わせたサービス)	1.2	1.3	1.9	1.2
認知症対応型通所介護	0.8	1.8	1.6	1.8
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	1.0	5.6	4.4	6.0
いずれも利用していない	19.2	7.1	7.2	7.1
無回答	6.3	7.1	10.6	6.0

9. 特別養護老人ホーム入所申込みの状況

(1) 特別養護老人ホームを申し込んだ理由

- 「将来の介護に不安を感じるため」が最も多く 47.6%、次いで「家族が精神的・身体的に疲れているため」が 39.2%、「家族が働いており、介護する家族がいないため」が 26.4%、「ひとりぐらしで介護する同居の家族がいないため」が 25.4%と続いている。
- 11ポイント以上では、「ひとりぐらしで介護する同居の家族がいないため」の割合が高くなっている。

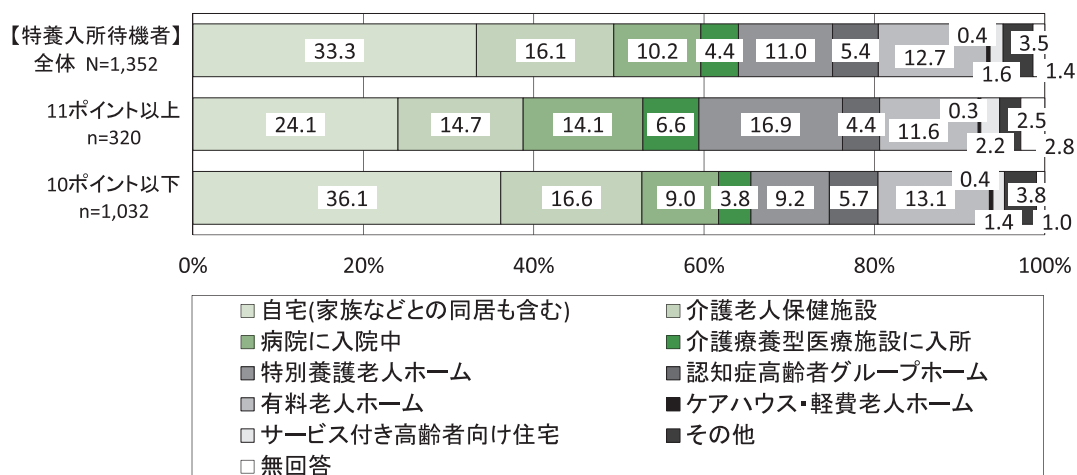
図表 19 特別養護老人ホームを申し込んだ理由（複数回答）



(2) 現在の生活場所

- 「自宅」が約3割、“施設や病院など自宅以外”が約7割を占めている。
- 「自宅」以外では、「介護老人保健施設」(16.1%)が最も多く、次いで「有料老人ホーム」(12.7%)、「特別養護老人ホーム」(11.0%)となっている。

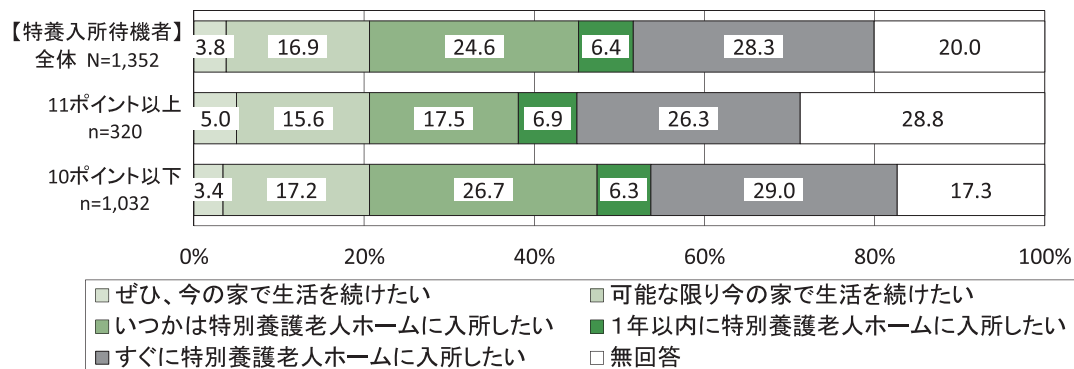
図表 20 現在の生活場所（単数回答）



(3) サービス等の充実による在宅生活の継続希望

- 「ぜひ、今の家で生活を続けたい」と「可能な限り今の家で生活を続けたい」「いつかは特別養護老人ホームに入所したい」を合わせた“当分は在宅生活を継続する”(45.3%)が、「1年以内に特別養護老人ホームに入所したい」「すぐに特別養護老人ホームに入所したい」を合わせた“特別養護老人ホームに入所したい”(34.7%)を上回っている。

図表 21 サービス等の充実による在宅生活の継続希望（単数回答）



10. 家族介護の状況

(1) 家族介護者の負担や困りごと

○要介護認定者では「日中、家を空けるのを不安に感じる」(40.8%)、特養入所待機者では「精神的なストレスがたまっている」(49.4%)が最も多い。

図表 22 家族介護者の負担や困りごと（複数回答）

	要介護認定者 (n=978)	【特養入所待機者】 全体 (n=887)		
		11ポイント以上 (n=183)	10ポイント以下 (n=704)	
本人に正確な症状を伝えるのが難しい	14.7	25.5	27.3	25.0
来客の際に気を遣う	12.8	12.4	10.9	12.8
日中、家を空けるのを不安に感じる	40.8	43.1	42.1	43.3
本人の言動が理解できないことがある	19.3	31.9	31.1	32.1
本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.2	8.2	9.3	8.0
適切な対応や介護方法がわからない	9.8	13.6	14.8	13.4
介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	8.9	10.7	12.0	10.4
誰に、何を、どのように相談すればよいかわからない	7.5	9.8	13.1	8.9
家族や親族に介護を協力してもらえない	9.8	18.7	20.8	18.2
家の構造が介護をするのに適していない	10.6	22.3	21.3	22.6
サービスを利用したら本人の状態が悪化した(したことがある)	2.6	6.3	10.4	5.3
睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	14.9	27.1	23.5	28.0
身体的につらい	28.0	38.0	42.6	36.8
精神的なストレスがたまっている	38.3	49.4	43.7	50.9
自分の用事を済ませることができない	20.6	32.1	30.1	32.7
自分の自由になる時間が持てない	28.1	34.3	33.9	34.4
先々のことを考える余裕がない	21.6	30.3	30.1	30.4
経済的につらいと感じたときがある	17.2	26.4	28.4	25.9
その他	5.1	9.6	14.2	8.4
特に困っていることはない	9.3	3.3	1.6	3.7
無回答	19.9	20.4	24.6	19.3

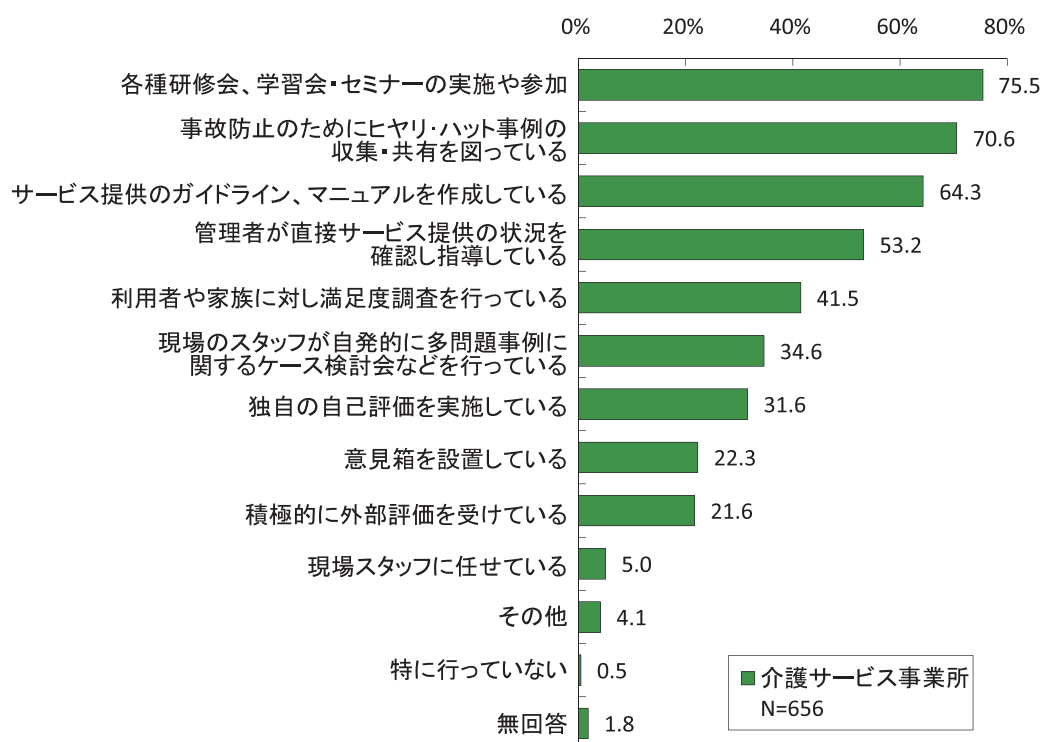
※要介護認定者、特養入所待機者の主な介護者のうち、家族と回答した人（要介護認定者 978 人、特養入所待機者 887 人）に対して、家族介護の状況について聞いた

11. 介護サービス事業所調査

(1) サービスの質の向上のための取り組み内容

- 「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が最も多く75.5%、次いで「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が70.6%、「サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している」が64.3%と続いている。

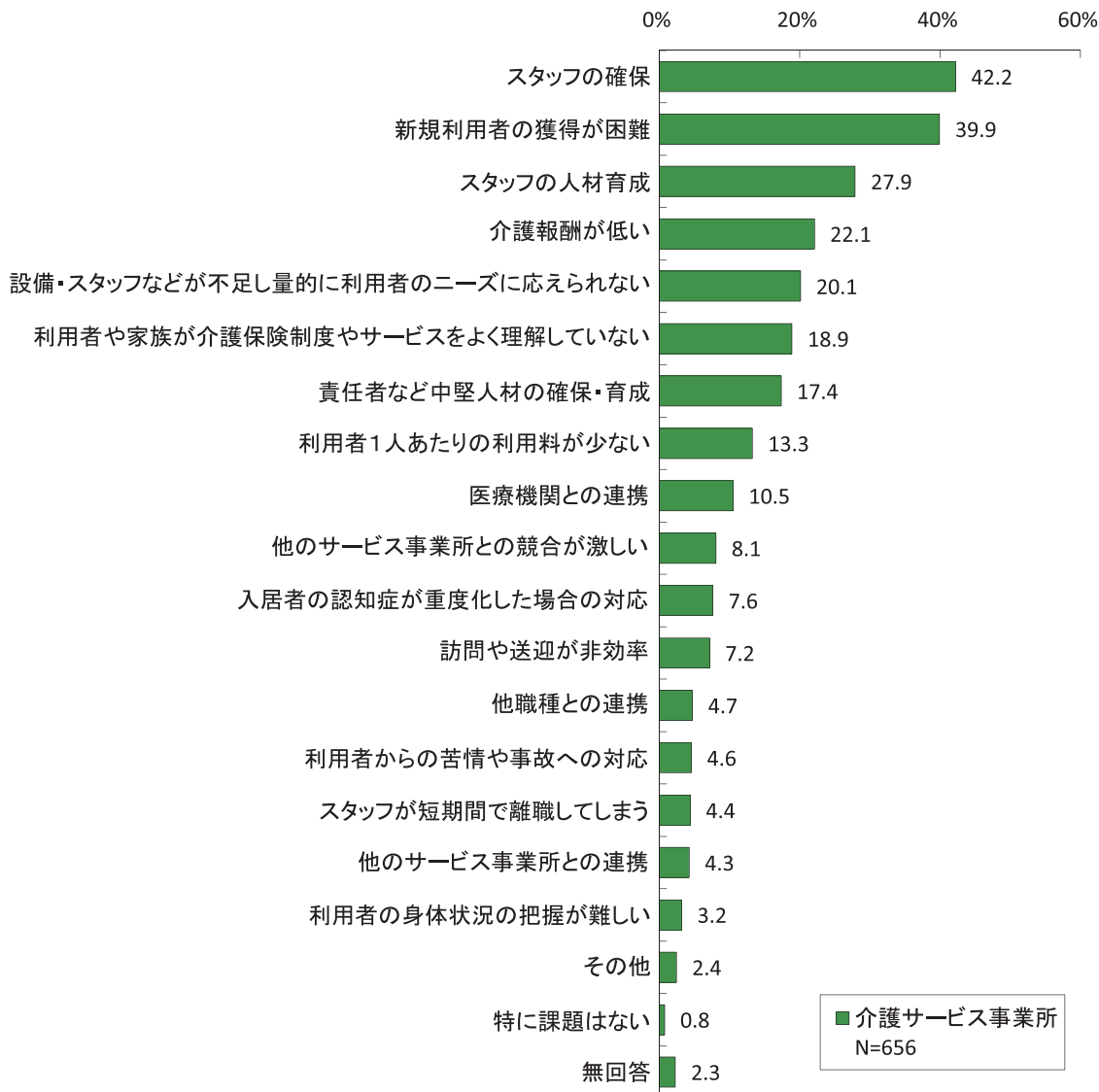
図表 23 サービスの質の向上のための取り組み内容（複数回答）



(2) 事業を運営する上での課題

○「スタッフの確保」が最も多く 42.2%、次いで「新規利用者の獲得が困難」が 39.9%、「スタッフの人材育成」が 27.9%と続いている。

図表 24 事業を運営する上での課題（複数回答）



練馬区高齢者基礎調査報告書 【概要版】

平成 26 年（2014 年）3 月発行

編集・発行 練馬区 健康福祉事業本部 福祉部 高齢社会対策課
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北 6 丁目 12 番 1 号
電話：03-5984-4584（直通）



※再生紙を使用しています